

ハッピー 通信



本部 〒890-0032 鹿児島市西陵1丁目8-7 TEL 099-282-7408 FAX099-296-1733 (事務局 TEL 099-283-6120)



巳年を迎え、新年明けましておめでとうございます

皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

「へビは神の使いと言われ金運に結びつき、幸運の象徴とされている」そうです。巳年にあやかり、皆様に金運と幸福が訪れるように願っています。

子どもを幸せにしたい、私も家族も幸せになりたいという思いを持った者たちが集まりNPO法人ハッピーの発足に至りました。

子どもたちが暮らしやすい社会は、誰もが暮らしやすい社会だということを、大いに語り合ったことを懐かしく思い出します。その思いを、今現在も私たち理事は持ち続けていると思います。

私たちの活動は、有難いことにたくさんの方の応援して下さる方に支えられ続いています。発足当時2006年に比べると、皆様の応援、職員のがんばりがあり、事業所が増え、予算規模も10倍を超えるまでになりました。

障がい者と健常者が共に歩む共生社会を目指し、地域と触れ合う中で相互理解が深く刻まれ、心のバリアフリーが段々と進む未来が出来つつあります。

皆が幸せになれる道とは、为什么呢？

会社員時代に課題に取り組む姿勢や考え方でネガティブな発言をせず肯定的な発言をせよと教わり、心掛けてきました。

70歳となった私はいろいろな経験からこの言葉は、社会生活においても正しいと確信し、他者を悪く言わず認め合うことが、幸せの一番の近道だと思っています。

幸せ(ハッピー)を掴むために、みんなで行動していきましょう。

特定非営利活動法人ハッピー 理事 中村政弘



親子の笑顔のために

とんぐりで働き始めて4年目の私。この間にはコロナが流行し、親子行事は感染拡大防止のために子どものみでの開催になったり、泣く泣く中止になったりすることもあり、保護者の方々とお会いする機会が少なくなっていました。現在は、賑やかなイベント・行事も可能になり、親御さんとの交流も深まっています。

保護者の思いにふれて

とんぐり1年目の私はとても心動かされることがありました。それは、卒園児の保護者の方が連絡帳に記されていた思いです。いつも笑顔でいらっしゃったその方が、とんぐり利用最終日に保健師さんとの出会いから今までの思いを書いてくださっていました。笑顔の裏には口には出さない悩みや不安があったことを最終日の連絡帳を通して知ることができました。この事を通して、親子に寄り添うことの大切さを改めて実感しました。

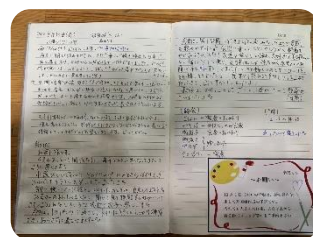
現在とんぐりには、元保護者だったスタッフがいます。保護者の気持ちも分かるスタッフの存在はとてもありがたいです。そのスタッフに幼児期の思いを聞いてみると、「その当時は未来が見えず、真っ暗で不安しかなかった」「今を過ごすことで精いっぱいだった」「子どもと向き合う時間が少なかったからかな?」「妊娠中に食べたものがいけなかったのかな?」などいろいろと原因を探してしまったり、友達に相談しても当たり障りのない返答で、悶々とし周りの子たちとも比べてしまったりしていたそうです。そんな中、療育に通うようになり、悩みを相談して苦しさを分かってもらえる『場所』ができたこと、悩みはそれぞれ違うけど話ができる『仲間』ができたことで安心感が生まれたというお話でした。

これからも大事にしたいこと

保護者の方の連絡帳やスタッフの当時の思いを通して、相談できる場所、相談できる人がいることの大切さを感じています。この時期の子育ては、不安や悩みがたくさんあると思います。そういう時に相談できる場所があったり、相談できる人がいたりすると少し安心して子育てができるのではないかと思います。最近の療育は、不安に対しての答えを求めることや何かをできるようにする場所になっているのではないかと感じます。もちろん、答えを出せると一番良いと思いますし、「〇〇ができるようになった!」と目に見える成長は安心すると思います。しかし、子育てには正解がないとよく言われます。だからこそ、よりよい答えになるために、一緒に悩み考えることを大事にしたいと思います。

とんぐりの療育は、何かをできるように訓練したり勉強したりする場所ではなく、何かをできるようにになりたい!という気持ちを育む場所、子どもの願いを考えながら子どもを中心として保護者やスタッフが一緒に悩む場所。そのため、とんぐりは、大人を『先生』ではなく『〇〇さん』と呼んでいます。誰が上ではなく、対等な立場で子どもを真ん中に、保護者の気持ちに寄り添い、一緒に悩み考え、子どもの成長を喜べる場所になれるように頑張っていきたいと思います。

(文責：日高 希)



☆とんぐりの連絡帳☆

家庭での様子、療育での様子や日々の成長を親御さんと共有しています。

放課後等デイサービス スクラム

放課後～自分づくりのとき～

みなさんにとって子どもの頃の放課後はどんなものでしたか？家に帰ってホッと一息～。その日の出来事を家族におしゃべり♪ランドセルを放り投げて友だちの家へダッシュ！きっとそれぞれの放課後があり、思い思いの時間を過ごしていたことと思います。ここ数年、スクラムでは中高生の放課後の充実について考え合ってきました。さて、スクラムの中高生の放課後はどうなっているのか…

自分の世界を深める

今年度スクラムを卒業する高等部3年生のYさんは賑やかな集団よりは静かに物づくりを楽しむ事が好きな女の子です。小学部時代は天真爛漫な印象でしたが、思春期に入り集団から距離をとるように過ごすことも増え、はじめは少し戸惑ったことを懐かしく思います。自分らしさを創ろうとしはじめた、そんな変化だったと思います。

その頃から他の中高生も含め、全体活動への参加だけではない、その子自身の興味の世界や好きな事の充実に向けた放課後の過ごし方がより検討されることとなりました。Yさんの好きな“物づくり”の世界を深める放課活動もスタートし、手芸の先生を招いて女子の小グループでお人形作りやバック作り等を体験していきました。2年程で先生を招いての支援は終了しましたが、興味と楽しみが途切れることはなく、Yさんの放課後の物づくりは継続していきました。



現在では丁寧で細かな作業もこなす根気と技術を身に付けたYさん。本格的なビーズアクセサリーやフェルト雑貨を次々と製作しています。更に、その素敵さに憧れたスクラムの後輩やスタッフには分りやすく作り方を教えてくれます。また、時には依頼を受けミシンでみんなが使う雑巾をたくさん縫ってくれたり、お友達のコートのボタンをつけてくれたりすることもあり、スクラムの仲間から一目置かれる存在になっています。また、学校で頑張る時期は物づくりに没頭することで自分を整え、バランスを保っていくような姿もあり、好きな事が心の支えになっていることも感じます。

自分らしい日々へ



この冬、Yさんは自分の進路を自分で選び、決めました。「自分の好きな事、得意な事を活かせると思ったので決めました。」と話し、手芸製品や雑貨作りを仕事とする事業所への就労を決めました。卒後へのワクワクした思いを語る姿が嬉しく、自分で選び取っていく力と想いを持った凛とした姿がかっこいいなあと思います。自分の好きな事をじっくりと深めてきたYさんは、好きな事を通して人や社会とつながっていく姿を私たちにを見せてくれています。

スクラムでは特にここ数年、一人ひとりが好きな事に取り組む時間を“自分づくり”の大事な時間として捉え、放課後活動を創ってきました。Yさんの姿を通して、改めて放課後は子どもたちが自分をつくっていくかけがえのない時間であることを感じます。放課後は今と未来を豊かに生きるための“子どもの時間”そんな放課後を大事に守っていきたいと思っています。

(文責：見玉 あかり)



サポートセンター開



「また明日も来たい」 そんな事業所を目指して

皆さんの「働く」という言葉のイメージはどのようなものでしょうか？

一般的には、仕事をするという方が殆どだと思います。また、働く意義とは、「お金を稼ぐため（経済性）」「社会的な役割を果たし社会の存続・発展に貢献するため（社会性）」「能力や個性を発揮して自己実現をなすため（個人性）」があるといわれています。

私自身に置き換えて考えたとき、仕事ってやりがいや手ごたえ、楽しさがないと働いていて意味があるのかな？と思うことがあります。給料をたくさん得られることも大切ですが、誰かに必要としてもらえること、頼りにしてもらえ、楽しいことをしたいから仕事を頑張る、などと様々な理由があると感じました。

なかまたちにとって、働くとは？

サポートセンター開のなかまたちにとって「働く」とはどういったことなのでしょう？

開では、4か月に一回の開マーケットを開催、また外部バザーのお誘いがあった時には積極的に参加しています。その理由として、実際に目の前で商品を手に取ってもらう姿を見たり、「これいいね」などと直接声をかけてもらったりすることで、自分たちが作った商品が世の中に出て、たくさんの人に買ってもらうことで、自分たちの能力や個性が評価され、社会のなかの一員なんだ、社会に必要とされているということを感じてもらい、そして、みんなに喜んでもらう為に、また仕事を頑張ろうという意欲を持つことに繋がってほしいと思っています。

Aさんは、開マーケット、外部バザーなどが近づくと、両手をたたいて「いらっしゃい」というサインをします。たくさんのお客さんに会えるのが楽しみなことが理由の一つでもあると思いますが、少し元気が無いなあというときにも、「バザーに出品するため」や「マーケットで売るために」と声をかけると、「よし、頑張って作ろうかな」と一生懸命作業に向かう姿も見られ、単にお客さんに会える

だけの理由ではないように思います。

バザーやマーケット当日の姿、前準備をしている姿、そして何より日常の姿を見ていると、サポートセンター開で働くなかまたちにとっての「働く」ということも、感じ方はなにか一人ひとり違えど、私たちと同じように仕事を通して手ごたえや達成感を得ること、誰かに必要とされることなどが、なかまたちにとっての「働く」ということなのではないかと思っています。

しかし、毎日「仕事!仕事!」では人間だれしも疲れてしまう、行きたくない、楽しくないと思ってしまうと思います。私たちが、職場の同僚同士で飲みに行ったり友達と出かけたりするのと同じように開では、なかま会の役員さんが中心となって外出計画を立て、全体活動を行っています。「あの場所なら、どの班も楽しめるよね」「ここはどうか？」と自分たちが楽しむことだけでなく、みんなで楽しめる活動を考えてくれています。楽しい時間を一緒に過ごすことで、また明日から仕事を頑張ろうとお互いに支え合っているようにも感じます。

最後に

作業の中での手ごたえややりがい、楽しさ、そして、余暇時間の充実、楽しさの共有という、ここ数年サポートセンター開として意識してきたことが少しずつ形になりつつあるように感じています。

土曜活動などの外出活動で、外食をしたりお弁当を買ったりする為に、好きなものを買うための貯金をするために、と仕事を頑張りますというなかまもおり、働く理由というのは、やはりなかまたち人それぞれです。なかまたちそれぞれが思う「働く」にスポットを当てながら、日々の仕事の中で手ごたえや充実感を得たり、楽しさをみんなで共感したりすることで、みんなが「また明日来たい!」と思えるような、「疲れているけどみんなが居るから行こうかな」と思えるような、そんな職場・事業所でありたいと思います。

(文責:池田 一仁)

豊かさとは何だろう？ グループホームにおける生活文化を考える

豊かな暮らしとは？

グループホームに暮らす方々にとって豊かなくらしとはどんな生活なのだろうか？「ご飯がたくさん食べられること」？「買い物に行って欲しいものを買うこと」？「やりたいことができること」？

現在グループホームに暮らす 6 人の方々は一人ひとりとても個性的です。障がいの種別もその程度も微妙に異なり、家庭環境も違う方々の共同生活ですから何かしらの不協和音があるのは当たり前です。

A さんは入浴が大好き！グループホームのお風呂はゆったりとした大きな湯舟です。そこにたっぷりのお湯を張り、ザブ～ンと入るのが好きです。髪の毛も自分で T 字カミソリを使ってピカピカツルツル坊主に剃り上げますが、その髪のない頭を洗うシャンプーやリンスにこだわります。自閉傾向特有の物の収集癖や常に満杯にしておきたいという情動行動等があり、生活の中で気になることやこだわりが多くて生活しにくいだろうなあ～と感じさせられます。集団生活の中で自由気ままにはいかない A さんのこだわりに、支援者が介入しすぎると A さんは怒りますが、他の利用者さんとのこれまでの共同生活を通して、付き合い方も怒り方も変化してきているように感じます。

納豆が好きな A さんは給食担当者に、「ナットウ！」と要求して「コンドカッテクルネ！」と応じると、「アカ」と銘柄までも要求を出します。

チラシを観るのが好きな B さんや携帯でお肉料理を見つけて「これが食べたい」と伝えてくれる C さん。言葉をうまく使って表現や伝えることができない方たちが、自分の思いを伝えようとする姿が見られるようになってきています。

くつろげるホームを目指して

今年度は地域の夏祭りや花火大会、サイクリング、買い物やお弁当もってピクニック等ホームの仲間たちとしたいことを話し



合いながら実現してきました。明日の予定が気になる D さん。予定が気になりつつも日常生活の中に楽しみがあると予定にこだわる姿が少し減少しているのではないかと感じることもあります。

何も無い時の時間に「まあまあ座ってお茶でも飲みませんか～」「好きなテレビや楽しかった夏祭りの写真もテレビで見ましょよ～」と肩の力を抜いて笑顔がはじけ、皆がくつろげる雰囲気のあるホーム「生活集団」であればと思います。

(文責:永田 怜佑)

～すべて国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する～

日本国憲法 25 条第 1 項



<プロフィール>

名前: 児島さん (1年目)
所属: 子育てサポートどんぐり
職名: 児童指導員

Q、今後の目標を教えてください

子どもの思いに寄り添った支援ができるよう、知識や経験をたくさん重ねて子どもからも頼られる指導員になりたいと思っています。

Q、なぜ、“子育てサポートどんぐり”で働こうと思ったのですか？

療育に携わる仕事に就きたいと考えていて、様々な情報を調べていく中で、アットホームな環境で療育を行い、療育を感じさせない雰囲気づくりをしていると知り、子育てサポートどんぐりで働きたいと思いました。

Q、実際に働いてみてどうですか？

日々子どもたちとのやりとりや活動の準備など困ることも多く、悩みますが、職員の方たちが経験をもとに分かりやすくアドバイスをしてくださいます。いただいたアドバイスを参考にしながら頑張っています！

Q、放課後等デイサービス スクラムで働こうと思ったきっかけは？

前職は、児童発達支援と放デイの両方ある多機能型事業所で働いていましたが余裕がない一日でした。自分が余裕を持って子どもたちのことを、より考えて支援できる職場を探していたところスクラムと出会い働きたいと思いました。



<プロフィール>

名前: 田村さん (1年目)
所属: 放課後等デイサービス スクラム
職名: 保育士

Q、この仕事や職場の魅力を一言！

子どもたちやその家族の事を、職員全員で語り合いながら考えて全員で支援するアットホームな雰囲気がとっても心地いいです。日々の活動は、大人の都合ではなく、子どもたちに寄り添った内容を意識し、個々に応じた内容を設定していくことを大事にしていると感じ、子どもたちの意志が尊重されていることに感銘を受けています。

Q、長年働いてみて今感じることを教えてください

最初の頃は障害児とふれあうのも未経験でアタフタ…それでも子どもたちという時間は“楽しい!”の一言。それが徐々に“発達とは?”、“療育とは?”という難しいことを考えるようになり、頭を悩ませながら支援や活動に取り組んでいます。最近では、入職当初にかかわった子どもたちが立派に大人の階段を登っている姿を見て感動!と共に“ボクも負けてられないな…”と思います。

Q、この仕事の魅力を一言！

私は利己的な人間で、自己中心的だと昔から思っています。でもこの仕事には利他的な精神が求められます。すごく人間的に鍛えられます。福祉の仕事を通して、10年前よりも他者に優しい自分になっていると思います。まだまだ他のスタッフにはかないませんが…。という具合に人間的に成長できる仕事です！

<プロフィール>

名前: 森さん (8年目)
所属: 放課後等デイサービス スクラム
職名: 児童指導員

Q、この仕事に臨むこと、わがい

子どもたちにとって、家庭でもない、学校でもない、第3の世界である『放課後』という場所。その場所で育まれるもの、その時間の重要性、そういったものがもっと社会に浸透すればいいなと思います。

～語り継ぐ～ NO.2

道のない道行ったり来たり、みんなで歩けば道になる

原点に立ち戻り改めてそもそも私たちの法人はどのような変遷をして今に至るかをこれからこの法人を引きついでいってくださる方々に向けて記してみたいと思います。

ありがとう！山崎理事長夫妻！あなた方がいたから今があります！

NPO 法人ハッピーは障害をもった子どもの親御さんが中心になって発足した会です。我が子が自分たちや兄弟児たちと同じように、「人として」豊かな人生をおくってほしい！と願った親たちの集団はごくごく普通の親御さんたちの集まりでお金持ちでも福祉に秀でた人が居たわけでもなくただ、「子どものために」の想いだけで現在に至っています。



前回記した療育を受けて「子どもが変わる」ことを実感した親たちは子どもの居場所づくりに奔走しスクラムを立ち上げ運営してきました。子どもの活動や運営・子育てを母親に任せていた父親たちが関わり始めたのは、やはり子どもが変わっていくという事実への喜びと、母親たちの一生懸命さに何かをせずにはいられなくなってきたからでしょう。父親たちは次第に活動へ参加をし、それぞれの得意なことを引き受けていき、父親同士のつながりができていきます。仕事が終わってから父親も集まり資金作りのための話し合い、新聞づくりなどの活動が開始されていきます。何かを興す時にいかに本気になれるか!!という体験は厳しくもまた夢を実現させるわくわく感に満ちていたことを思い出します。

父親の中心となったのが、現在サポートセンター開で働いている祐大君のお父さん、山崎祐

伸氏現法人理事長です。気は優しくて力持ち！という言葉がぴったりの山崎さん！スクラム時代の餅つき会やキャンプ等、どの子どもも自分の子どものように遊んでくださる方でした。子どもにも親たちにとっても最年長である山崎さんご夫婦を頼りにして自分たちの法人を立ち上げる決意をし、多くの方々の応援をもらい親の会の父親たちは理事に、法人理事長は山崎祐伸さんとなったのです。

私の好きな映画「釣りバカ日誌」の中のスーさんこと大手会社の会長役の三國廉太郎さんのセリフに「この会社は私のものではない、経営陣のものでもない、君たち社員のものだ、働く人たちと家族の生活を大切にするのは社会の義務だ！」等々と。私たちの法人では、ここに利用者の幸せが加わります。「子どもを真中にみんなの幸せを追求する」と。

経営不振になれば企業では社長というトップが、法人では理事長が責任を問われます。小さな法人ではありますが理事長の重圧は否めません。私は事業に従事する者の一人として設立当初の山崎さんたち理事会のその思いを引き受けていかなければと心しています。

どんなに重い障害があっても一人の人として尊重される社会を、職員が安心して働き続けられる法人を存続させなければなりません。今後理事会の在り方も含めて福祉への逆風に抗する粘り強さが今また試されていると感じます。

(文責：前迫 とし子)





教えて、ハッピー先生!! ~障害者権利条約について~



障害者権利条約を知っていますか?~23号からのつづき~

サポートセンター開(きょうされん鹿児島支部員) 大石 和史

障害者権利条約にはたくさんの大切な事が書いてあります。

その中でも全体を通して、障害のない市民との平等の実現を特に大切にしたものになっています。障害の捉え方については、機能面の障害(知的、発達、精神、肢体、視覚、聴覚、難病など)だけではなく、その人をとりまく環境(障壁)との関係で、障害が重くも軽くもなるとしています。(医学モデルから社会モデルへ)

他にも人間らしく生き方を大切に、スポーツやレジャー、芸術などの文化的活動や余暇を、自分の生活にたっぷり取り入れるを掲げています。

また、インクルーシブ(わけへだてのない)という考え方もあります。現実には教育や就労、生活の場面で分け隔てられている状況があります。表向きには地域でいっしょに生活しているように見えても、障害のない人との間には大きな格差があります。

国連は「国際障害者年」に関連して「一部の構成員を締め出す社会は弱くもろい」と決議しました。障害がある人が暮らしやすい社会は誰にとっても暮らしやすい社会になります。バリアフリーという考え方が

広がれば、車いすの人も、高齢者も、子どもも、たくさんの荷物を持っている人も、外国人にも、みんなが移動しやすい便利なものになっていきます。障害者の社会参加度は、そのまますべての人の暮らしやすさ度に繋がるのではないのでしょうか。障害者権利条約が活かされた社会になればなる程、障害がある人を地域社会のなかにたくさん見かけるようになります。公共交通機関を気兼ねなく使用して行きたい場所に行ったり、ヘルパーさんと色々な場所に出かけたりすることが出来るはずですよ。

2022年9月に、日本の政府の報告と、各団体のパラレルレポートを受けての「総括所見」が発表されています。権利委員会が「ここはいいですね」「ここは問題があります」など現在の日本を審査した結果です。難しい表現もありますが、政府の審査という視点ではなく、障害当事者、支援者、家族、友人の立場として、新たな視点に気付くことが出来るかもしれません。

今後も権利条約をはじめとした障害者問題について学び、自分たちの問題として諦めずに取り組んでいきたいと思います。 ~次回へつづく~



共に創るハッピーな未来に向けて! ~賛助会員を募集しています~

NPO 法人ハッピーでは地域の中で誰もが安心してひとりの人間として生活していけるように地域生活サポートに関する活動を行い、暮らしやすい町の創造と地域福祉の推進図ります。私たちの取り組みにご理解くださり、賛同してくださる方を広く募集しています。どうぞよろしくお願いいたします。

【入会方法】振込用紙に、氏名、住所、電話番号、会費種別(個人/団体)をご記入の上、下記口座にお振込みください。その際に、誠に申し訳ありませんが、振り込み手数料をご負担くださいますようお願いいたします。

賛助会員 個人 ー□ 2000 円 団体 ー□ 10000 円 (何□でも可)

<口座名義> トクテイヒエイリカツドウハウジンハッピー
ダイヒョウシャ ヤマサキヒロノブ

<口座番号> 鹿児島銀行 西陵支店
普通預金 口座番号 545722

お問い合わせ先 NPO 法人ハッピー 099-283-6120 (担当:有村)

